



大学卒業後、車いすバスケの練習に何度か参加させていただいたのですが、これまでやってきたバスケとは感覚が違うなと感じていました。そんな時に「陸上もあるよ」と下地コーチに声を掛けてもらったのが車いす陸上（マラソン）と出会ったきっかけです。

**車いすマラソンの魅力は？**  
スピード感が魅力のひとつだと思います。通常のマラソンより、車いすマラソンの方が速いことを知らない方も多いのではないのでしょうか。また、ほかの車いすスポーツとは異なるスピードを追求した競技用車いす「レーサー」も魅力だと思います。

**うるま市でもトレーニングは行っていますか？**

週末は海中道路でロードトレーニングをしています。常に風があつて、上り坂や下り坂が適度にあるため、練習環境として最高だと思っています。走っている方やウォーキングをされている方も多く、日常にスポーツがあつて、活気ある印象を持っています。

その海中道路で開催されている「あやはしロードレース」では、車いすの部も設けてくださって、地元で走れるレースがあることを大変うれしく思っています。沿道からの応援や、与那城総合公園陸上競技場の賑わいが溢れる雰囲気が好きで、毎年楽しみにしている大会のひとつです。



**現在のコンディションは？**

緊急事態宣言下で陸上競技場などが閉鎖されているのですが、幸いにも室内トレーニング等が行える環境にあるので、現在は「できるトレーニング」を集中して行っています。持てる力を発揮できるようにすることが一番だと思っています。

**東京パラリンピック日本代表となりました。現在の心境は？**  
代表に決まった時、応援して下さっている皆さんへ報告ができることうれしさが一番でした。多くの方に支えられ、応援していただいたことが、パラリンピック日本代表という結果に繋がったのだと思っています。

# 今できることをしつかりと。

Interview

東京 2020 パラリンピック 女子車いすマラソン日本代表

## 喜納翼選手

2021年8月24日に開幕を迎える東京パラリンピック。うるま市から車いすマラソン競技で世界へ挑むパラアスリート 喜納翼選手にお話を伺いました。

[PROFILE]

喜納翼 / きなつばさ

1990年5月18日生。うるま市田場出身。2013年に車いすマラソンを始め、2019年の大分国際車いすマラソンで1時間35分50の日本記録を樹立。

**子どもの頃はどんなお子さんでしたか？**

子ども時代は身体を動かすのが好きで、友達と地元の田場児童公園で鬼ごっこをしたり、自転車に乗って遊びに出かけるのが好きでした。

小学校4年生からはバスケットボール部に入って、それ以来大学までずっとバスケットに打ち込んでいました。

**車いす競技を始めたきっかけは？**

大学生1年時にトレーニング中の事故で脊髄を損傷し、車いすになりました。

ただ、高校時代から読んでいた車いすバスケのマンガ「リアル」の影響もあって、車いすに対する抵抗もなく、受傷以前からパラスポーツへ関心を持っていました。入院中には外出許可をもらって、車いすバスケの見学へ行ったりしましたね。

実は、初めて車いすバスケを見学に行った際、案内してくれた職員が現在指導してもらっている下地コーチでした。当時は「パラスポーツをするなら車いすバスケ」と思っていました。体力には自信がなくて、走ることを大の苦手としていた私には、車いす陸上の選択肢はありませんでした。

**パラリンピック出場という夢を叶えた喜納選手。夢を叶えるために大切だと思うことはありますか？**

今できることをしっかりとやること、感謝の気持ちを持つことが大切だと思います。一生懸命やれば、いい経験も苦しい経験も糧になり、努力を見てくれる人も必ずいます。また、感謝の気持ちがあれば、人もモノも大切にしていけることができ、人と人の繋がりでできているこの社会で、夢を叶えるきっかけとなるチャンスを増やすことができると思っています。

**最後にパラリンピックの抱負と市民の皆さまへのメッセージをお願いします。**

東京パラリンピックはひとつのスタートラインだと思っています。大会当日は、地元うるま市・沖縄県を代表し、持てる力を存分に発揮し、日本代表として誇りをもってレースに挑みます。レース本番は早朝ではありませんが、テレビなどを通して車いすマラソンのレースをご覧いただくと幸いです。引き続き応援の程、よろしくお願いたします。